

水道事業会計

《参考:事業年報 15・17ページ》

資料1ページ 平成30年度決算(収益的収支)

※以下【主な増減理由】中、()内は予算対比の増減。

水道事業収益 <ページの左側>

【主な増減理由】

○給水収益 (78,469 千円の増)

家事用・業務用の使用水量が予算見込ほど減少しなかったことによる増。

○他会計負担金 (11,231 千円の減)

水道・下水道事業の共通経費である人件費が単価減に伴い減少したことなどによる下水道事業会計からの負担金の減。

⇒ 水道事業収益総額 4,467,454 千円(70,204 千円の増)

水道事業費用 <ページの右側>

【主な増減理由】

○職員給与費 (53,806 千円の減)

人事異動に伴う単価減による人件費の減。

○配水費 (11,321 千円の減)

入札減に伴う修繕費の減などによる配水管維持管理費の減。

⇒水道事業費用総額 3,726,625 千円(100,407 千円の減)

※水道事業収支差(税抜) **595,813 千円 (純利益)**

資料2ページ 平成30年度決算(資本的収支)

資本的収入 <ページの左側>

【主な増減理由】

○企業債 (241,000 千円の減)

工事請負費の入札減や財源の変更等による企業債発行額の減。

⇒資本的収入総額 1,063,511 千円(247,581 千円の減)

資本的支出 <ページの右側>

【主な増減理由】

○量水器整備事業費 (42,473 千円の減)

○配水管整備事業費 (23,783 千円の減)

入札減等による材料費や工事請負費の減。

○職員給与費 (17,385 千円の減)

人事異動に伴う単価減による人件費の減。

⇒資本的支出総額 3,034,803 千円(89,135 千円の減)

※資本的収支不足額 1,971,292 千円は、損益勘定留保資金等で補てん。

平成30年度末の内部留保資金残高 1,931,081 千円

(将来の更新工事等の費用の財源として使用予定。)

資料3ページ 平成30年度決算(収益的収支)

下水道事業収益 <ページの左側>

【主な増減理由】

○下水道使用料 (40,371 千円の増)

家事用の使用水量が予算見込ほど減少しなかったことによる増。

○他会計負担金 (27,613 千円の減)

雨水に係る維持管理経費及び企業債利息等の減による一般会計からの負担金の減。

⇒下水道事業収益総額 5,078,997 千円(7,462 千円の増)

下水道事業費用 <ページの右側>

【主な増減理由】

○職員給与費 (37,430 千円の減)

人事異動に伴う単価減による人件費の減。

○資産減耗費 (11,387 千円の減)

管渠設備等の除却資産の減による資産減耗費の減。

⇒下水道事業費用総額 4,398,224 千円(83,114 千円の減)

※下水道事業収支差(税抜) **639,123 千円 (純利益)**

資料4ページ 平成30年度決算(資本的収支)

資本的収入 <ページの左側>

【主な増減理由】

○企業債（174,400千円の減）及び 国庫補助金（56,165千円の減）

国からの補助金の減や工事請負費の入札減等による企業債発行額及び国庫補助金の減。

北海道が行う十勝川流域下水道事業の一部繰越に伴い、関連する事業費を翌年度(平成31年度)に繰り越したことによる減。

⇒資本的収入総額 1,141,311千円(233,204千円の減)

資本的支出 <ページの右側>

【主な増減理由】

○管渠建設費（138,434千円の減）及び 施設設備改良費（23,339千円の減）

国からの補助金の減や入札減による工事請負費等の減。

○流域下水道建設費（20,049千円の減）

北海道が行う十勝川流域下水道事業の一部繰越に伴い、関連する事業費を翌年度(平成31年度)に繰り越したことによる減。

⇒資本的支出総額 3,004,056千円(194,337千円の減)

※資本的収支不足額 1,862,745千円は、損益勘定留保資金等で補てん。

平成30年度末の内部留保資金残高 998,194千円

(将来の更新工事等の費用の財源として使用予定。)